

編集後記

2019年11月に武漢で発生し瞬く間に世界全体を巻き込むパンデミックへと発展した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が依然として猛威を奮っている。現状を第4波の立ち上がりと見做す専門家が多いが、第3波までとは異なり実行再生産数が5割ほど高いとされる変異株が主流となっており、重症化率も高いことから対策病床逼迫への懸念が増している。残念ながらわが国はワクチン確保競争の負け組であり、WHOの公表する4月9日現在の国別ワクチン接種率ではイスラエル61.3%、英国47.0%、米国31.5%であるのに対し、わが国は0.8%と残念ながら低く、医療関係者すらワクチン接種待ちが続く状況である。この数字は先進国はもとより、多くの発展途上国をも下回るものであり、わが国の感染症対策のお粗末さを嘆かざるを得ない。このような状況なので現状の活動制限はさらに続くものと思われるが、国民の多くがコロナ疲れの中で“心と体の連動”に気づき始めているのではないかな？

在宅勤務など慣れない環境での業務に対応できず、心療内科に救いを求める人が増えているようだ。その多くは適応障害と呼ばれる状況であり、発症リスクは日頃のライフスタイルとの関連が強く、社交的な人、活発な人ほど陥りやすいようである。不安、心配、抑うつ、イライラといった心の反応で始まるが、ほどなく食欲低下、不眠、倦怠感、めまいや動悸、血圧上昇、

さらには筋骨格痛といった身体症状が前面に出てくる。この状況を放置すると無価値観、罪責感、絶望感、希死念慮といった症状に陥るが、これらは鬱の症状であり精神科医による本格的な治療が必要な状態とされる。

私は予防早期医療創成センターという部署にも所属することから国立精神・神経医療研究センターが主導するAMED受託事業である「コロナ鬱対策事業」に参加している。われわれのミッションは適応障害までの軽症の状況でメンタルの異常に気づき、また、病院を受診することなく患者自身で認知行動療法を行い対処できるようにするためのオンラインツールの開発である。メンバーのほとんどが心理学・精神科の専門家であり、整形外科から参加しているのは私のみである。しかし、会議を重ねるうちにメンタルヘルスにおける整形外科医の役割を強く意識するようになった。というのも、メンタルとフィジカルの両方に異常を感じる際に心療内科や精神科は受診のハードルが高く、患者の多くが一般内科や整形外科を受診している実態に気づいたからである。この意味ではかかりつけ医となっている整形外科開業医の役割は大きい。診療に際して患者のメンタル不調の兆候にもぜひ着目してほしい。

(平田 仁)

「整形・災害外科」第64巻 第6号 (5月号) 2021年5月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 2,860 円 (本体 2,600 円 + 税 10%) 年間購読料金 定価 44,660 円 (本体 40,600 円 + 税 10%) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。